

事業所における自己評価（児童発達支援）結果（公表）

公表：平成31年3月1日

事業NPO法人 ころこ・コミュニケーションの発達支援 まいすてっぷKids

職員全体で実施した自己評価結果（公表）

チェック項目			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			個別指導室（ぱんだ）と保護者談話室（こあら）の間にきちんとした間仕切りを入れて、夫々独立して使えるようにし、保護者同士の懇談等に使用しやすくしました
	②	職員の配置数は適切であるか	○		法律で決められている配置基準より1～2名多く（曜日によって異なる）の職員を配置しています。	
	③	生活空間は、本人に分かりやすい構造化された環境になっているか。また障害の特性に応じ、事業所の設備等はバリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			遊具や教材などが子どもの目に入り注意がそれ易い部屋があるので、できるだけ子どもの目に入らないように収納したり、間仕切り、衝立、パーテーション等を活用していきます
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。	○		木製床のプレイルームにクッション材を敷いて転倒したときなどの衝撃を和らげるようにしています。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDACサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加しているか	○			職員が揃っての話し合いの時間の確保が難しいのが現状です
	⑥	保護者向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向を把握し、業務改善につなげているか	○			30年11月に保護者による評価を実施、いただいたご意見、意向を踏まえて業務、環境改善に努めています。すでに取り組んでいる項目もあります
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		○		支援の質の評価や改善については現在着手しているところですが、昨年度開設したばかりなので、その結果の報告は本年3月初めにホームページや事業所内に掲示してお知らせします
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		開設して1年未満ということで、まずは自己評価をしっかり行い、その後時期を見て第三者評価を実施したいと考えています。

	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			事業所内部の研修（外部講師の招聘も含めて）毎月1回程度実施し、外部研修も必要な研修を受講できるようにしています。また、職員のキャリアアップ計画を行い、自ら学ぶ職員を育成しています。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で児童発達支援計画を作成しているか	○			事業所内では行っていますが、他機関、外部の専門機関、医療機関からの情報が入りにくいため、総合的な視点からのアセスメント、課題の分析を行っての支援計画がたてにくいです
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		開所して間もないこともあり、まずは他機関から（医療機関、教育相談等）の情報収集や保護者からの聞き取りが中心になっています。他機関での実施と重ならないように、また子どもさんに負担にならないようなアセスメントツールをどのようなものにしていくかの検討が必要だと考えます。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援のガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「家族支援」については、できるだけ保護者の方と懇談する時間を確保し、できるだけ保護者の困り感や疑問をに対応しています。	「地域支援」の計画が立てにくく、地域資源の把握や地域の関係機関との連携の必要性を感じています。少しずつ関係機関との関係づくりを行っていきたいと思います。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		一人一人の子どもさんのニーズに合ったプログラムを工夫しています。集団活動の中でも、個別の目標を設定し担当職員全員で話し合って決め、終了後は一人一人の子どもさんの状態や職員の関わり方などについて丁寧に振り返りを行っています	
	⑮	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○		子どもさんに必要な支援を「ことば・コミュニケーション」「認知課題」「行動、感情」などの領域でプログラムを工夫しています	家庭での取り組みにつなげるように保護者に伝えていく工夫をしています。（プログラムの目的ややり方、家庭での取り入れなどを連絡票に書いて共有する）

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○			個別活動と集団活動を組み合わせて子どもさんに必要な支援を行っていきたいのですが、保護者の方の仕事等の関係で利用の回数が少なく、うまく組み合わせられないこともあります。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			
	⑱	支援終了後は、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか	○		時間の確保が難しいですが、必ず振り返りをし課題を共有しています。	
	⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			記録の様式、記載の仕方等に工夫が必要です。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性の判断をしているか	○		半年おきに、職員全体で子どもさんの評価と次期課題を話し合い、それをもとに保護者の方の次期ニーズと併せて、次期支援計画を立てています。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			管理責任者は必ず参画し、可能な限り直接担当者も参画するようにしていますが、療育支援の時間中に事業所を抜けて参画するのが難しい時もあります。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援が行われているか		○		保健センターや医療機関との連携が十分に取れていないと思います。
	㉓	移行支援として保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で支援内容の情報共有と相互理解を図っているか		○		子どもさんの在籍園（幼稚園、保育園）や小学校との連携は、一部の機関とは出来ていますが、全体としては不十分です。今後できるだけ連絡、連携を取り合っていくように考えています。
	㉔	移行支援として小学校や特別支援学校（幼稚部）等との間で支援内容の情報共有と相互理解を図っているか		○		同上
	㉕	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			
	㉖	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		全員の子どもさんが幼稚園、保育園を利用されています	

175	②7	協議会や子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			
	②8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	○			来所が難しい保護者の方との情報共有の工夫が必要だと考えています。
	②9	保護者の対応能力の向上を図るため保護者に対して等) 家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○			学習会やその日の活動から見える子どもさんとの家庭でのかかわり方のアドバイス等は行っていますが所謂「ペアレント・トレーニング」は行っていません
保護者への説明責任等	③0	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		保護者の負担にならないように、なるべくわかりやすく説明している。	
	③1	児童発達支援計画には、児童発達支援のガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		子どもさんの状態と必要な支援、保護者のニーズと連想させながら、納得していただくように説明しています。	
	③2	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援を行っているか	○		定期的とは言えませんが、必要に応じて、面談、助言等を行っています	
	③3	父母の会の活動やの支援したり、保護者会等の開催する等により保護者同士の連携が支援しているか		○		今後の検討課題です。保護者会は難しくても、懇談の機会を設けるなど工夫していきたいと考えています
	③4	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	③5	定期的に会報を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		平成30年12月から毎月1回おたよりを発行しています。	
	③6	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	○			
	③7	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	○		お知らせや次回の活動予定などは必ずプリントにして伝えています	
	③8	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		実施は困難だと思います

非常時 党委 の 対 応	③⑨	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を作成し、保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練が実施しているか	○		11月末にマニュアル策定、簡易版の配布、訓練の実施を行っています。	
	④⑩	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他の必要な訓練を行っているか	○	2	昨年11月に火災発生時の避難訓練をグループ利用の方のみ実施しました。3月には地震を想定した訓練を計画しています。また、災害発生時に備えた物資を備蓄しています。	
	④⑪	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか		○		事前の十分な聞き取りができていない項目もあるので、今後必要項目の表を作成し、保護者に記入してもらい、確認する予定です。
	④⑫	食物アレルギーのある子ども、医師指示書に基づく対応がされているか		○		保護者からの聞き取りのみでしか対応できていません
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成し事業所内で共有しているか	○		毎日の活動でちょっとしたことでもヒヤリハットとして職員で共有して事故につながらないように環境を整備したり、常に子どもさんの動きに注意を払うようにしています	
	④⑭	虐待を防止するため、職員の研修を確保する、適切な対応をしているか	○		研修の実施、職員の自己チェックを行っています	
	④⑮	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者事前に十分に説明し了解を得たうえで、児童発達支援計画に記載しているか		○		身体拘束を行うことはありません。クールダウンの必要から活動の場から別の場所に移る場合には説明と了解を得るようにしていますが、支援計画に記載していないので、記載するようにします。